



東陽病院  
内科医師  
宇野史洋

# 健康ウォッチング

⑧

横芝町の皆さん、こんにちは。今年も住民検診の季節がやって来ました。今回は胃集団検診について、この場をお借りして一つのお願いをしたいと思います。

胃集団検診の際には、まず最初に検診車の中などでバリウムによる造影検査（一次検診）が行われます。これは間接造影といって、短時間に多くの人数を検査できますが、写真を4〜5枚しか撮影しないので病院で行う胃造影検査（直接造影）より精度が落ちます。この一次検診の結果、異常が指摘されると精密検査を病院で受けて頂くこととなります。

現在、東陽病院では、一次検診で精密検査が必要といわれた人たちが全員に、まずバリウムによる造影検査（二次検診）を行っています。これは直接造影といって、横になったり下向きになったりして10枚以上写真を撮りますから、一次

## バリウムが先か？ 胃カメラが先か？！

検診の間接造影よりも精度が良く細かい病変も診断できます。しかし、この直接造影で終わりにほならない人もいます。そうです。胃カメラです。直接造影で異常があると、さらに胃カメラで直接胃の中を診て、必要があれば組織を採取して、最終的に胃の病変を診断することになります。

以上のように、現在はいく人では3回も検査を受けて頂いているわけですが、いつも胃カメラにまで回ってこられる人が結構多いように見受けられます。例えば、十二指腸潰瘍の瘢痕や胃のポリープがある人などは、毎回異常を指摘されて胃カメラまで検査を受けることになるのです。こういった人の場合、病院で行うバリウムによる直接造影を省略して、一次検診の次にすぐ胃カメラを行った方が良いでしょう。実際、旭市を含め全国的に、病院での精密検査は最初から胃カメラを行う地域が増えています。

1月号にも書きましたが、バリウムによる造影検査では、胃粘膜の色の変化や浅い凹凸変化を診断しにくく、癌かどうか調べる組織採取もできません。また、胃カメラの方が早期胃癌の診断率が高いといわれています。

希望者に対しては、東陽病院でも、最初から胃カメラを受けて頂けるようにしたいと思っております。（勿論、バリウムによる造影検査を希望する人には今までどおりに行います）胃癌も早く見つければ治せる時代です。そのためにも、胃カメラを一人でも多くの人に嫌がらずに受けて頂きたく思います。胃カメラの場合、血液検査と予約のため、別の日に一度来院して頂く必要がありますが、住民のみなさんのご理解をお願いします。ご質問のある方は、病院または役場までどうぞ。



## 暮らしの ポイント

⑫

### あせもの予防 皮膚を清潔に保つ

夏になると、「あせもに悩まされる」という人も少なくないでしょう。首やひじの内側、ひざの裏やわきの下などによくできます。特に気温の高い場所で働く人や乳幼児、太っている人や多汗症の人にできやすいといえます。では、どうしてあせもができるのでしょうか。



汗は酸性で、雑菌の繁殖を防ぎますが、そのままほうっておくとアルカリ性になり、逆に雑菌の繁殖が盛んになって汗腺がふさがれます。そのため、汗が出るに出不らず、皮膚の表面にあるケラチンと呼ばれる硬いタンパク質層にたまり、水ぶくれをつくりまわります。これが、あせもの初期で、水ぶくれが透き通って見えます。これを「水晶体あせも」といいます。この段階では、かゆみも痛みもありません。

さらに症状がひどくなると、皮膚の深い層にまで汗がしみ込み、赤いポツポツができます。これを「紅色あせも」といいます。表皮にたまった汗が神経を刺激し、かゆいやら痛いやらと本物のあせもになります。

あせもを防ぐには、汗腺が詰まらないように、皮膚を清潔に保つことが一番大切です。汗をかいたら、顔や手足をきれいに洗ったり、濡れタオルなどでふいたりするようにしましょう。そして、入浴を毎日欠かさないでください。

シャワーも、あせもの予防に効果があります。「汗をかいたな」と思ったら、一日何回か水を浴びたり、せっけんで軽く洗ってぬるま湯で流したりして、雑菌の繁殖を防いでください。パウダーで、皮膚の表面の汗を吸い取るのもいいでしょう。ただし、付け過ぎると皮膚の表面を覆って発汗を妨げ、かえってあせもの原因になりますので、注意してください。